

影見つけたよ…影って面白いね!

岡崎市緑丘保育園 (愛知県岡崎市)

[3、4、5 歳児]

毎年4月下旬になると、園庭の一角にある高いポールにこいのぼりを揚げています。子どもたちはこいのぼりが大好きで、高い所で風を受けユラユラと泳ぐ様を見て楽しんでいます。

子どもの様子	・ 保育者の受け止め * 保育者の援助
<p>5月1日 AM11:10 5歳児 A 児:「先生ここにもこいのぼりがおよいでいるよ!」 子どもたち: A 児と保育者の言葉で影に気づき、地面に映っている黒いこいのぼりを踏んでみたり、動くのを追いかけたりする。 5歳児 B 児: こいのぼりの影を見ていると自分の影に気づきピョンピョン跳んで「見てみて! ウサギ!」と得意そうに教える。</p> 	<p>* 「すごい! ほんとだね」と子どもの気づきに共感し一緒に見る。 ・ 影をこんなにもしっかりと見たことがなかったが、とても面白い。他児にも伝わり興味をもち始めた。</p> <div style="border: 1px dashed green; padding: 5px;"> <p>影の存在に気付いたことを取り上げ、体や手、物の影を映し、その面白さを子どもたちと一緒に楽しむようにしたい。</p> </div>  <p>・ 「ほんと! ウサギだね!」子どもの作った影に共感し、面白さを共有する。</p> <p>* うまく影の出来ない子には立つ位置を変えてみるように知らせる。 ・ 子どもたちは動きと影の形が同じことに気付くことができたが、地面に映す角度など難しさを感じた。</p>
<p>みんなで影を作って遊ぶ 子どもたち: B 児の影を見て、思い思いに自分で影を作り出す。指を動かし「カニだよ!」「これ、キツネ!」手を振っている子もいる。 ・ グー、チョキ、パーと手で影ジャンケンをする子もいる。 ・ 3歳児では角度によってうまく映らない子もいる。年上の子のすることを真似ている。 ・ 他児の影を見て「〇〇みたい」とイメージし、思うような影になるように工夫したり、試したりしている。</p>  <p>AM11:30</p>  <p>A 児「どうなるかね?」と楽しみにしている。</p>	<p>* 高いポールの影の位置がどのように変化するか見るようにし、「棒の影はどこかな?」と投げかけ継続して影に関心がもてるようにする。</p> <p>・ 子どもたちとポールの影の位置を確認し、そこに釘に付けた青のリボンで目印を付ける。 * 「どうなるかな?」と言葉をかけ期待をもたせる。 ・ 子どもたちは早く見たい気持ちになり、期待感がある。</p>

考察

いつも目にしている影であるが気にとめてジーンと見たり戸外でこうして遊んだりしたことがなかった。子どもが影に気付いたことがきっかけで興味関心が湧いて影を映す遊びが始まり、工夫したり、表現したりする姿も見られた。遊んでいる中で角度によっては、うまくできないことにも気付いている。

その後の展開

食後すぐにボールの影を見に行ったB児が、影の場所が変わっていることを大声で他児に知らせる。5歳児はみんなで前の印と見比べ、位置の変化に気付く。動いた位置に緑のリボンを付ける。

子どもの姿	保育者の援助・環境
<p>①降園前にも位置を確認し黄色のリボンを付ける。影の長さ気付いたり迎えに来た保護者に伝えたりする。</p>	<p>①「ほんとだね。長いね」と発見したことに共感する。</p>
<p>②絵本の中で影の話が出てくる場面では特に興味をもって聞く。C児は「今日は見えないねえー。だってお日様が出てないもん。雲が隠しているから」と自信をもって言う。</p> <p>③「やりたい」と意欲満々で言う。園庭に保育者がくいを打ち始めると、「影あった」と言い、地面に映るくいの影を触る。 「11時はこの辺かな？」とすでに予測を立てたり、「何で影が変わるのかな？」と疑問をもち、「今何時？」と聞いてくる姿がある。</p> 	<p>②影の話が出てくる絵本を読む。 子どもたちの気付きに共感し、お日様で時計を作ることができるか提案してみる。</p> <p>③子どもと園庭に“くい”を打ち、「どうやって時計にしようか？」と投げかける。今の時間を10時と伝える。影の長さが時間によって異なるのでくいを中心に半径30cm位の円を描き、影の動きの位置、角度に目が向くようにする。</p>
<p>④5歳児中心に進めてきたが、園庭に日時計を立てたことで3、4歳児や他のクラスの子どもも保護者も興味を示し、観察するようになった。始めは10時のみだったがどんどん時間が増えていく。</p> <p>⑤保育者の作った日時計を日のあたる所にもって行き試していた子どもたちが、日時計を作り始める。</p>  <p>⑥興味をもって見ている3、4歳児がいる。5歳児の日時計を見せてもらい、影が見つけれられた時は「影わかったよ」「外の日時計と同じだね」と嬉しくて得意になって知らせている3、4歳児の姿がある。</p>	<p>⑤牛乳パックで日時計を作り、いつでも試せるように保育室に置く。 自分の日時計を戸外で試す時に、置き方で影の位置が変わるので、机の縁に合わせて日時計を置けるように机の位置を決める。日時計の置き方を意識できるように園庭の日時計の傍に設定する。</p> <p>⑥3、4歳児も楽しめる日時計を作る。</p>

考察

生活や遊びの中で自然に目にする影を意識して見ることで、楽しく様々な発見をし、子どもと一緒に感動を味わうことができた。快晴の日に真っ黒にしっかりと映る影や曇りの日のボンヤリとした影など天気によっての影の色、影の長さ、角度による違いに気付き、変化を楽しむことができた。5歳児は自分の日時計を作り試したことでより関心が深まり、3、4歳児も興味が湧いたと考える。実践を通し、保育者の言葉かけ、かかわりから何気なく目にしていく物が「楽しい」「面白い」につながるということがわかり、主体的なかかわりの大切さをより一層感じた。

ポイント

子どもたちがこいのぼりの影に気付いたことをきっかけに、影の不思議を感じる活動が展開しました。子どもたちの興味をキャッチして絵本を読んだり子どもと園庭に“くい”を打ったりした保育者の援助により、子どもたちは影の観察を熱心に重ねることができ科学する心が育まれました。

また、時刻とともに変化する、影の位置や向き、長さ、天候により異なる影の濃さなどに気付き、日時計作りへと結び付いた5歳児の姿は、異年齢の幼児にとって魅力的な環境になっています。